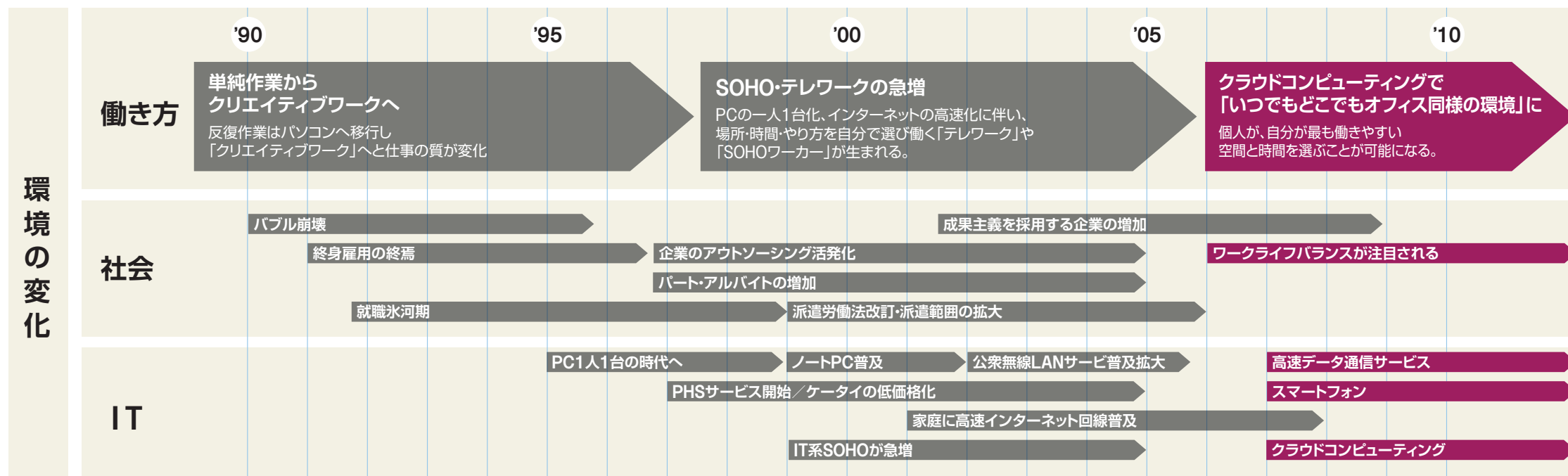


クラウド時代のビジネスパーソンををサポートする「平河町ライブラリー」ができた理由とは？

アカデミーヒルズは1996年から、産・官・学が組織の壁を越えた研究会を多数主催し、より快適なオフィス環境やワークスタイルを提供する試みを生み出してきました。

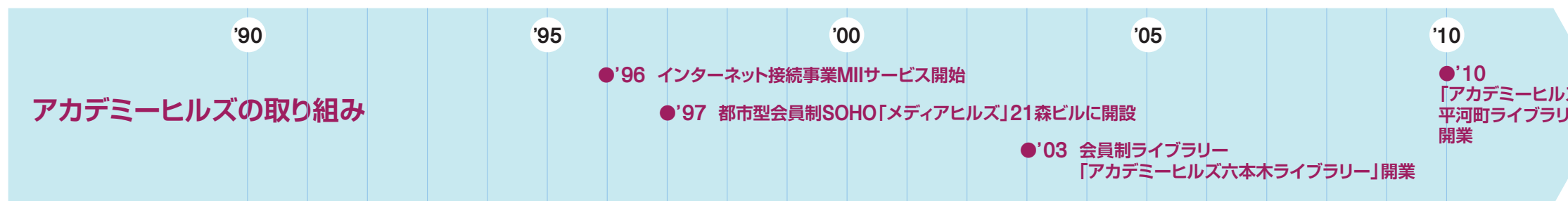
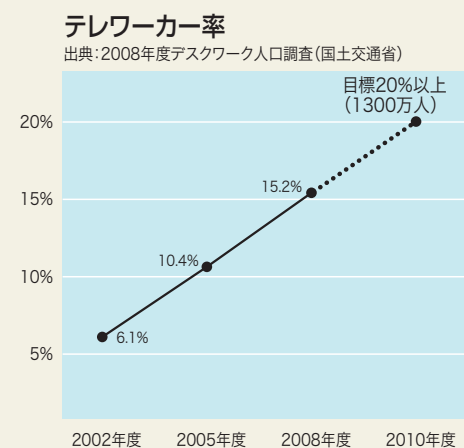
中でも、97年に開設した都市型会員制SOHO「メディアヒルズ」での試みは、六本木ヒルズ開業とともに開設した六本木ライブラリーに受け継がれる、当時としては画期的なものといえます。「個」として活躍するビジネスパーソンの為の「場」を様々な形で提供し続けてきた、アカデミーヒルズの遺伝子が息づく平河町での試みへの経緯を、世の中の動きとともにご紹介します。



クラウドコンピューティング時代の新しいワークスタイル

国土交通相では2002年から「情報通信手段を活用して場所や時間にとらわれない柔軟な働き方」を「テレワーカー」と称してその実態調査定期的に行って来ました。IT新改革戦略(平成18年1月 IT戦略本部)では「2010年までに適正な就業環境の下でのテレワーカーが就業者人口の2割を実現」との目標が掲げられています。国土交通省による「テレワーク人口実態調査」によると、2008年まで、目標通り順調に

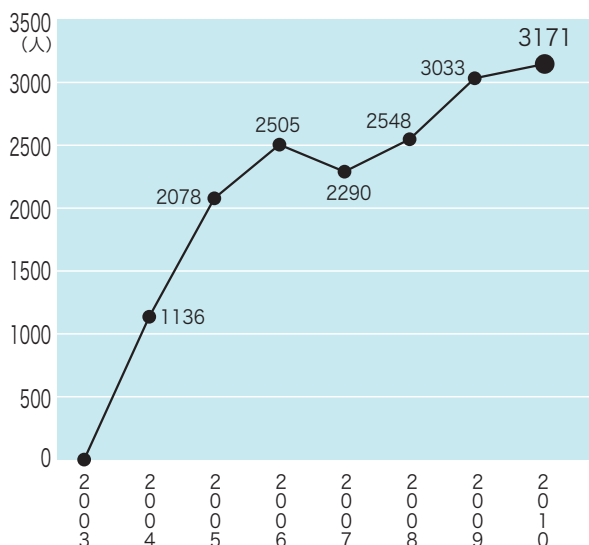
推移しており、今後ますますの増加が見込まれるワークスタイルです。



新しいワークスタイルをサポートするアカデミーヒルズ平河町ライブラリー

アカデミーヒルズの展開するライブラリーとは

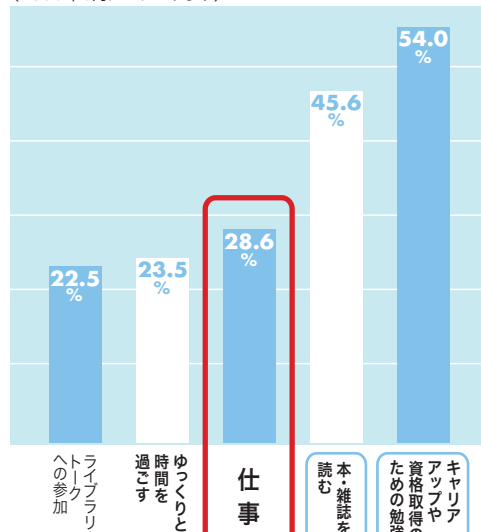
アカデミーヒルズ 六本木ライブラリー メンバー数推移



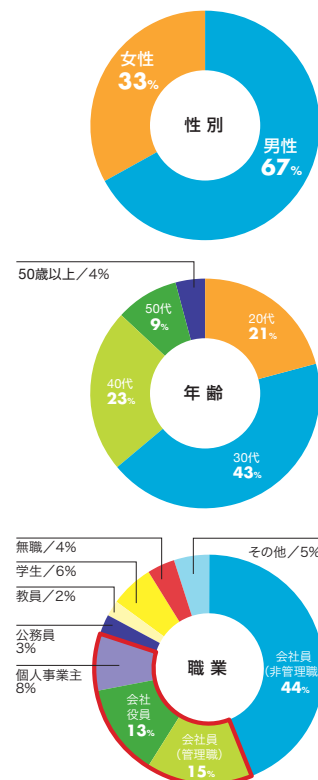
メンバー数は2003年開館以来、着実に伸びており、2010年5月末日現在3171人名の方にご利用いただいております。

※2007年は会費値上げの為若干減少

ライブラリー利用の目的
(2009年6月アンケートより)



複数回答の中で「勉強」や「本を読む」という回答が多いが、「仕事」の回答も4人に一人以上が上げている。



男性と女性は約2:1の割合

30代が43%と大半を占め、20代～40代までで全体の90%となる。

「会社員」が全体の60%を占めるが、うち管理職が15%。管理職に「会社役員」及び「個人事業主」を含め、36%が自分の裁量で仕事をする層。

アカデミーヒルズ 平河町ライブラリーのターゲットは「クラウドコンピューティング時代に、都心を舞台に活躍するビジネスパーソン」です。六本木ライブラリーに比べて、より「働く」側面に注目し、会社や組織への所属の有無に関わらず活躍する「個人」が必要とする施設や機能、そして人と人をつなぐネットワークの場を提供します。 ※具体的な利用者像は「資料2:アカデミーヒルズ 平河町ライブラリーの利用者像」をご覧ください。

